



スでも決まりつつあります。処分地を決めた国の人々に「どうしてあなたの町に原子力のゴミの地層処分場を誘致したのですか？」と聞くと、ほぼ同じ答えが3つ返ってきます。

一つ目は「原子力の好き嫌いに関わらず、私たちが使っている電気は原子力の恩恵を受けているものだから、ゴミの責任は私たちの世代でなんとかしなくてはいけない」という答えです。

2つ目の答えが「今地上にあるのだから、地層に置いていく方法は地上にあるより安全だろう」というものです。

3つ目は、このような政策を進めていく「規制官庁・機関が情報をどんどん出してきて、透明性があり信頼できる」という答えです。地元の人には原子力の専門家ではないので詳しいことは分かりません。分からないけれども「質問をすれば何でも答えてくれる、何でも情報を出してくれる、この人たちなら信用できる」ということです。

私自身、このようなところを見てきて、科学的には安全性が高いし、決めていくのは地域や国民との話し合いの結果なので、日本でもできないことはないと考えています。

安全性

そうはいつでも原子力の安全性については心配だという方もおられます。皆さんも同じ思いでしょう。東日本大震災の時は、東京電力の福島第一原子力発電所が事故を起こしました。

あの震災で影響を受けた他の原子力発電所も事故を起こしていたら、私も「原子力はやめたほうがいい」と言ったと思います。

ところが、福島第一の1号機〜4号機は事故を起こしましたが、同じ福島第一の5・6号機は安全に止まっています。10km南の福島第二も安全に止まりました。東北電力の女川原子力発電所1〜3号機は福島第一より震源地に近かったのですが、福島



第一と同等かそれ以上の揺れと津波に襲われましたが、安全に止まり、事故には至っていません。

女川の成功には、私は3つの要因があったと思っています。

ハード面では敷地の高さや電源の確保です。女川は、送電線の耐震性を高めていたため、地震に襲われても送電線が1回線無事でした。また、非常用ディーゼル発電機についても、8機中6機が使用可能なままでした。加えて、津波に備えて高い場所に建てていたため、建屋に多少水が入ったものの、一帯は無事でした。ソフト面では、「人の動き」だと思

います。私はこれが一番重要だと思いますが、女川の場合は様々な状況を想定して常に訓練していました。

そのことが評価され、震災後、世界の原子力事業者の協会から当時の所長が表彰されました。その理由は「日頃から緊急時の対応をはじめとした事前準備を行ってきた」「過去に例を見ない巨大地震と津波にも関わらず、3基全てを安全に冷温停止に導いた」「震災で被災した地域住民を受け入れ、地域とともに困難を乗り越えた」というものでした。

問題なのは原子力発電所というしくみそのものではなく、それを動かす人たちがどう考えています。反対・賛成といった単純な議論ではなく、

その発電所をどのように運転しているか、常に安全性を高めているか、それを私自身は見ているかと思っています。

技術力

それから、技術力も必要です。先ほどから「化石燃料は二酸化炭素を出すからダメだ」と言ってきましたが、日本には多様性が必要ということから考えると火力も必要です。日本は発電効率が高い（石炭火力が出す二酸化炭素も比較的少ない）発電所をつくっています。その技術を世界中で使えば、世界で出す二酸化炭素を減らせます。ですからこういう技術は伸ばしていかなくてはならないと考えています。

もう一つは地熱です。日本は化石資源には恵まれません。地熱の資源は世界3位です。日本という土地柄を考えれば、太陽光や風力はある程度のところで抑えておいて、地熱のほうが開発の余地があると考えています。

太陽光や風力は天候まかせですが、地熱は一度場所を見つければ安定して発電します。温泉よりもっと深い地層から熱を取り出して発電しますから、温泉に影響はありません。二酸化炭素を出さないという点では

太陽光や風力と一緒にですが、非常に安定してエネルギーを取り出せるという意味では原子力と似ています。二酸化炭素を出さない、そして安定に人間がコントロールできるエネルギー源だということです。

世界では「ゼロエミッション電源（二酸化炭素を出さない電源）」が増えていますが、太陽光や風力のような変動型の再生エネを増やすより安定型の再生エネが増えてきています。単に「再生可能エネルギーに切り替えればよい」ということではなく、同じ二酸化炭素を出さない電源でも、より安定な電源として地熱や原子力という方向性で世界は動いているということです。

もちろん太陽光や風力に適した場所ではそれが増えていますが、変動型である以上、導入量が限られているということです。

最後になりましたが私が申し上げたいことは、皆さんの日々の暮らしがリスクを正当に怖がることで、安全で幸せなものでありますようにということなのです。

